

とちぶん会報

No.61

2020年10月10日

栃木県文芸家協会 発行人 福田 三男
事務局／栃木県下都賀郡壬生町中央町16-18 三上博史 方
〒321-0226 TEL090-9318-2492

令和2年度定期総会を開催・新役員が決定

新型コロナウイルスの影響により開催が延期されていましたが令和2年度栃木県文芸家協会総会が、9月27日(日)午後1時30分から栃木県教育会館[宇都宮市]において開催されました。小林会長が病気により欠席となり、福田副会長が会長代行として議事進行を務めました。会員22名が出席いたしました。

審議事項の①令和元年度栃木県文芸家協会事業報告、②令和元年度栃木県文芸家協会収支決算報告は、事務局からの説明があり、審議のうえすべて承認されました。

③年会費の改定については、会員増加により朝明原稿への投稿数が増え、これにより印刷経費が高むことから現在の6,000円を2,000円値上げして8,000円とすることが事務局より説明されました。審議のうえこのことは承認されました。

④令和元年度栃木県文芸家協会事業計画、⑤令和元年度栃木県文芸家協会収支予算、⑥任期満了による役員改選については、事務局からの説明があり、審議のうえすべて承認されました。

その他として、今年度事業計画に基づいて発行される朝明第9号の編集方針について、三上編集委員長から説明がありました。

なお今回の総会配付資料は、協会ホームページにおいて、会員限定で閲覧可能となっています。総会を欠席された方は是非ご覧になってください。

例年総会終了後に開催された懇親会は、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

<令和2・3年度役員>

- ◇ 会長 福田 三男(小説)【新任】
- ◇ 副会長 高杉 治憲(小説) 押久保千鶴子(随筆)
- ◇ 理事 橋本紀久子(小説) 宇賀神 忍(評論) 鈴木 芳子(短歌)
福澤 悦子(短歌) 三上 博史(川柳)
- ◇ 事務局長 三上 博史(川柳)
- ◇ 会計 神長 昭治(詩)【新任】
- ◇ 監事 戸井 通夫(詩) 国井 和子(随筆)
- ◇ 顧問 野澤 俊雄(詩) 高田 太郎(詩) 小林 守城(詩)【新任】

<令和2・3年度『朝明』編集委員>

- ◇ 委員長 三上 博史(川柳)
- ◇ 委員 橋本紀久子(小説) 国井 和子(随筆) 鈴木 芳子(短歌)
福澤 悦子(短歌) こやま きお(詩)【新任】

※上記6名に、野澤顧問、高田顧問、小林顧問、福田会長、高杉副会長、押久保副会長の6名が加わり計12名の構成。

令和2年度年会費の追加納入について

当協会の年会費については、令和2年度から改定されて8,000円となるのが今年度の総会で決定されました。については、追加納入分2,000円を今回同封した所定の郵便局振替用紙にて、本年11月末までに納入してください。なお、振替払込受領証は領収書となるので大切に保管してください。

秋季講演会の開催が中止になりました

9月27日(日)(総会終了後)に開催を予定していました令和2年度秋季講演会は、講師の日本ペンクラブ理事 村山精二先生の体調不良により急遽中止となりました。

新型コロナウイルスの感染の影響が今後どのようになるか分かりませんが、来年度は夏季講演会として開催したいと考えています。

第2回編集会議を開催・『朝明』第9号は編集へ

朝明第9号の原稿提出は9月末日に締め切り、総数97編(前号は104編)の作品が集まりました。各部門の提出数は以下のとおりです。()内の数字は前号のもの。

- ・創作(小説) 10編(10) ・評論 3編(2) ・随筆 17編(17) ・詩 9編(10)
- ・短歌 20編(22) ・俳句 3編(5) ・川柳 8編(7)
- ・特集「コロナで考えたこと」27編(31、テーマは「令和一捨てられるもの捨てられないもの」)

10月6日(火)に第2回編集会議が開催され、各部門の編集委員による原稿確認・編集作業が行われました。表紙デザインについては、益子町在住の陶芸家 藤原郁三氏の作品「牛鬼」に決定しました。

次回の第3回編集会議は、11月10日(火)を予定しています。

『創作への志』 会員通信 No.18 詩部門 こやま きお

詩を書き始めたのは20代ではあったが、在職中、詩作は一切しなかった。しかし、将来の詩作のためというわけではないが、段ボールひと箱ぐらいのスケッチ風なメモを書き溜めてはいた。本格的に取り組んだのは退職後のことだ。メモを読み直して書いた詩もあれば、メモをそのまま引用した詩もあったが、メモ当時の感性にまで辿れず、納得できる詩のテーマには行きつけなかった。

新たな創作の導火線に火が付いたのは、原発問題を扱った映画『あいときぼうのまち』を見て、東日本大震災で亡くなったかけがえのない友人と、劇中の愛子の死と重なったからだ。それ以来、題材を拵げながら、過去・現在の挫折、喪失、祈り、未来への希望と渦巻く感情を一つ一つほぐしながら書いている。

§ 寄贈書籍の紹介 §

- 「栃木県現代詩年鑑 2020年版」／発行所・栃木県現代詩人会／発行日・2020年6月28日[同会からの寄贈]
 - ・栃木県現代詩人会会員37名の参加を得て、会員の1年間の成果を集約したもの。当協会会員5名が作品を載せている。
- 「短歌たかむら 八月号」／発行所・短歌たかむら／発行日・2020年8月10日[発行所からの寄贈]
- 「短歌たかむら 九月号」／発行所・短歌たかむら／発行日・2020年9月10日[発行所からの寄贈]
- 「那須の緒 第11号」／発行所・貝塚津音魚／発行日・2020年9月20日[発行所からの寄贈]

§ 新会員紹介 § ・随筆部門 早川 孝[鹿沼市]

* ∞ * 事務局通信 * ∞ *

新型コロナウイルスの影響が依然として続いています。来年の東京オリンピック開催は大丈夫なのでしょう。ワクチンの開発は間に合うのでしょうか。当協会においては、役員会・総会・朝明編集委員会は事業計画どおり開催することができましたが、会員相互の親睦を深める大切な場である懇親会が実施できない状況なのは寂しい限りです。来年こそはと願っています。

朝明第9号発行に向けて、編集作業が本格的に始まっています。毎年、間違いのないように努めているつもりですが、どうしてもミスが出てしまいます。今年こそは何とか頑張ります。(三上)